

4. 浜平尾迫の伝説

浜平の尾迫、葛迫の上を城内といいます。山城で葛迫城、下之城ともいって、伊地知氏の居城跡です。この山下の崖下に、十畳敷位の洞窟があって、この入口の、右に二、三基の石塔があって、中央の石塔が最も大きくて八角形です。その正面に「堅新幸七法師」と刻まれ、土地の人々はイボの神様として崇めています。また、それより二メートル位離れた高所に、長方形の石塔があって、「万延元年庚申十月」と刻され、正面に「三界萬霊」等と記された石塔もあり、昔からこの附近は、いろいろな口伝が残っています。

古老の話によりますと、昔、この辺りで激戦があって、一方が形勢が悪くなったので、鎧、冑、刀剣類をかくして逃げたとの言い伝えがあって、後年、近くの部民が相謀って、これらを発掘して、一攫千金の夢を抱いて、数隻の船にその財宝をのせ、好天気を幸に鹿児島に向けて勢いよく漕ぎ出しました。ところが、しばらく行くと、これまでおだやかだった海が、紺碧の空が俄に掻き曇って、風は台風となり、海はしけて大波となり、船は木の葉のように翻弄されて、進むことも出来ず、どうにもなりませんでした。

そこで、これは武神のたたりだと思い、悪いことをしてしまったと公開し、船を漕ぎもどして、発掘したものをみんな下のところに埋め戻して、ねんごろに供養したということになります。